

やなかわ

YANAGAWA 2013. 7月1日 No.199

今号の内容

- ◆金子市長が2期目の所信を表明 2～5
- ◆第23回参議院議員通常選挙 6～7
- ◆7月は同和問題啓発強調月間 8～9
- ◆情報公開と個人情報保護ほか 10～11
- ◆節電・省エネにご協力をほか 12～13
- ◆後期高齢者医療被保険者証を更新ほか 14～15
- ◆介護保険の保険料が決定ほか 16～17
- ◆市民のひろば(18-19) ◆川柳(19) ◆図書館・水の郷ニュース・柳川百選まち歩き(20-21)
- ◆情報わいど(22-28) ◆柳川にこの人あり 秋原里美さん(28) ◆もちふみデビュー(29)
- ◆保健ガイド(30-31) ◆新市史抄片(32)



熱く燃える若き力

伝習館高校は6月8日、大運動会を開催しました。創立190周年の今年は、伝統を継承しながら大事を成すという意味を込めた「興」がテーマ。全校生徒715人は赤、白、青の3ブロックに分かれ、リレーや応援台戦、騎馬戦などを繰り広げました。

100年前の日記

平成17年3月に新市が誕生し、同年4月号の市史抄片を1号から改めて、今回で100号を迎えます。これを記念して今号から数回を「100」にちなんだ内容でお送りします。

今回は、100年前の日記である大正2(1913)年の立花家家扶日記です。明治になると藩主であった立花家は華族となり、その交際や経済などの家政を担当する家令や家扶といった役割が設けられました。彼らによる記録がこの日記で、途中欠落もありますが、明治18年から昭和22年まで確認できます。大正2年の日記には250件余りの事項が書き上



【右】大正2年家扶日記表紙(旧柳河藩主立花家文書)



【下】福永とめについての記載

げられていきますので、その中からいくつか記事を紹介してみましよう。

まず1月9日条に「百歳高齢者へ御盃御品被遣」とあります。これは沖端村の福永とめという人が100歳になったお祝いに、寿の文字の盃、真綿、酒肴料が立花家から贈られたものです。他の年の日記には1例しか確認できないので、かなり珍しいことだったと思われる。

次に2月23日に長年立花家の家令を勤めた吉田孫一郎が亡くなったことが記載されています。吉田については昨年8月号の市史抄片にも紹介したとおり、山門郡長・福岡県議員として政治や行政に携わる一方、国立銀行や興産義社などの経済活動にも尽力しました。自身の日記も文久3(1863)年から大正2年までが残されていて、亡くなる1か月ほど前の1月11日が最後の記述です。明治43年に家令を辞めた後も

立花家のために尽力したことを評価され、立花家から祭料(現在の香典)などが贈られています。

9月15日には立花鑑徳が満州や朝鮮の視察に出発したと書かれています。旅順、大連、仁川、京城などを歴訪し、10月22日に帰柳します。この旅では農場の視察などを行うとともに多くの柳川出身者とも交流を深めました。

11月23日には「徳川慶喜様薨去二付東京へ電報」とあります。維新の中心人物の一人であった徳川慶喜が、明治という時代が終わって間もなく亡くなったのです。立花家とは「若奥様御母方御祖父ノ御統方」すなわち鑑徳夫人艶子の母、鏡子が慶喜の長女というつながりがありました。そのため立花家に雇われている一同は御機嫌伺いをしたと記載されています。

以上、いくつかの事柄を紹介しましたが、今からちょうど100年前の日記には移り変わっていく世相と共に、江戸時代からのつながりもまだまだ残っていることがうかがわれます。

市史編さん係 江島 香

編集後記

●7、8年前だったか、買って来たピワがおいしかったので種をまいていた。芽が出て、そのうちの2本が大きく育っている。実がいつなるかと毎年期待するが、いつも裏切られ庭が暗くなってしまうばかりだった。それが今年、一房だけ実がなっていた。「奇跡のピワ」の発見だった。(英一)

●子イヌを飼い始めた。毛が白いメスであまり大きくならないみたい。これまで飼ったことがないので最後まで反対したが多数決で完敗。今は室内犬として家の中をウロウロ。すると、床には抜けたイヌの毛が目立ち、粘着ローラーでコロコロ。うーむ、イヌにもコロコロしようか。(賢治)

●サッカー日本代表がW杯出場を決めた。開催地ブラジルと日本の時差は約12時間。生放送で試合は見れそうにない。さっそく最新録画機の購入を妻に提案するが、すぐに「却下」の2文字が返ってきた。世界の強豪と戦う日本代表を見るため、まずは家庭内の強敵との戦いを制さねば。(和久)

人のうごき

- 平成25年5月末現在
- 人口 70,606人 (前月比 -69)
 - 男 33,415人 (-36)
 - 女 37,191人 (-33)
 - 出生 43人、死亡 70人
 - 転入 123人、転出 165人
 - 世帯数 24,895世帯 (-5)